

「芯の通った学校組織」を活用・推進していくための実践事例 事例 1

目指す子どもの姿（達成指標）を、学年末での姿で設定した場合でも、1学期や2学期のスパンごとで評価・検証・改善が行える実践事例

重点目標 → 学習意欲の向上と低学力層の底上げを実現する

達成指標 → ① 学習意識調査において、「授業がわかる」と回答する児童の割合を学年末までに100%にする
② 1月実施の市学力調査結果において、各教科のD、E層を31%以内にする

学年末の姿

重点的取組 → ① 「〇〇市授業スタイル」を全ての授業で実施し、児童一人一人が自分なりの考えをもつ場を保障する
② 各教科で単元末評価テストを実施し、結果に基づいた個に応じた補充指導を行う

取組指標 → ① 「めあて」「課題」「まとめ」を位置づけた授業を全教科で実施する
② 全ての授業において、児童がノートに自分なりの考えを書く場を位置づける
③ 朝学習において、単元末評価テスト結果に連動した学習プリントに取り組みせ、その結果に応じた補充指導を火曜日と木曜日の放課後に実施する

1学期末、2学期末までに到達させたい子どもの姿を具体的に設定し、それを達成することができたかどうかの評価・検証を各学期末に行い、次学期の取組指標の改善につなげる

<1学期末の子どもの姿>

- ① 学習意識調査において「授業がわかる」と回答する児童が85%
- ② 国語データベースを活用して作成した小テスト（週1回実施）において、目標値をクリアする児童が85%

<2学期末の子どもの姿>

- ① 学習意識調査において「授業がわかる」と回答する児童が95%
- ② 国語データベースを活用して作成した小テスト（週1回実施）において、目標値をクリアする児童が95%